

---

# 皆が他人の心の声が聞こえたら

AKIRA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

皆が他人の心の声が聞こえたら

### 【Zマーク】

Z3938B

### 【作者名】

AKIRA

### 【あらすじ】

皆が誰かの心の声が分かるとしたら… といった事を考えてみた時の話。ちょい哲学?な感じで書いてみました。

## (前書き)

急にこんな事を考えてしまった自分がよく分からぬ。でもなんか書いてみました。ちょい見てもうつだけでいいです。

一度は思つた事があるはず、

『人の心の声が分かれればケンカやいがみ合いをしなくて済むのに』と。

でもどうだろうか？ 一つ仮定を挙げよう。

たくさん福袋がある。それを買う時の気持ち、誰だつて分かるはず。中身は何かなあ、と期待と不安を抱いて一つ買う。当たりの時は本当に嬉しい。だけど、ダメだった時は悔しいが、中身が分からぬいで買ったからしじうがない、とすぐに立ち直る事が出来るはず。

これを置き換えるべば分かるだろ？

話をする時、皆がどういう反応をするかと心で期待と不安が入り交じる。皆が期待通りの反応だと嬉しいし、思いもしなかった反応だと悔しいが、親しい仲同士だとしじうがないとも思える。

これが一般的な感覚だと僕は思える。

ではどうだろ？ 心が分かると言つ事はそんな事を考へる必要はないはず。

この人はこう思つてゐるから、こんな事言つたらダメだと分かつて最善の事を言つて済ます事が出来る。だけど相手がどんな反応をしたとしても悲しさも悔しさも無いが、嬉しさも楽しさもない。

こんな日常なんか楽しくも何ともない。

結局人の心なんて分からぬ方がいいのだ。神様はいつもいい奴では無いが、この世界の皆に心を読む力をくれなかつた事には感謝をする。

話を戻すと、だからこそ人は人と交わりながら生きていいくのだ。誰かと共に笑い、誰かと共に泣き、誰かと共にまた笑う。そんな当たり前の幸せに気付いていないだろ？ だけどそれでいいのだ  
そう僕は思う。

(後書き)

何だらう…。あまりこんなキャラじゃないのですが、ふと思つた事を書いてしまいました。誰か助けて！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3938b/>

---

皆が他人の心の声が聞こえたら

2010年10月29日06時09分発行